

Asia Indicators

発表日: 2021年10月8日(金)

原油価格上昇はアジアのインフレ圧力に(Asia Weekly(10/4~10/8))

～生活必需品を中心にインフレ率の上振れをもたらす状況が続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/5(火)	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	0.10%	0.10%	0.10%
	(タイ)9月消費者物価(前年比)	+1.68%	+0.70%	▲0.02%
	(シンガポール)8月小売売上高(前年比)	▲2.8%	--	+0.2%
10/6(水)	(韓国)9月消費者物価(前年比)	+2.5%	+2.3%	+2.6%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	0.50%	0.50%	0.25%
	(台湾)9月消費者物価(前年比)	+2.6%	+2.2%	+2.4%
10/8(金)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	4.00%	4.00%	4.00%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる一方、行動制限を反映してサービス物価に下押し圧力～

6日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.5%となり、前月(同+2.6%)からわずかに伸びが鈍化したものの、6ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標(2%)を上回る推移が続いている。前月比も+0.50%と前月(同+0.63%)からペースは鈍化するも3ヶ月連続で上昇しており、国際原油価格の上昇を反映してエネルギー価格の上昇が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品で物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.47%と前月(同+1.29%)から伸びが加速しているものの、インフレ目標を下回る推移が続いている。前月比は▲0.09%と前月(同+0.26%)から9ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して財価格に押し上げ圧力が掛かる一方、変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大を受けた行動制限の再強化を反映してサービス物価に下押し圧力が掛かるなど、物価を巡る動きは両極端な状況にあると判断出来る。

図1 KR インフレ率の推移

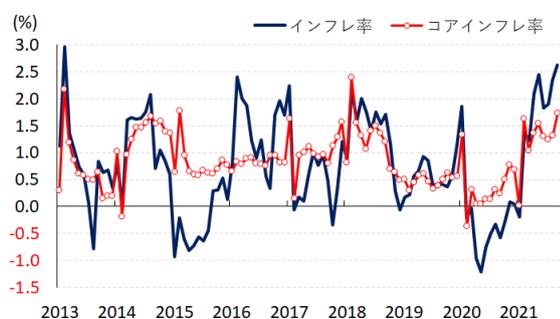


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～国際商品市況の上昇の影響に加え、行動制限緩和を受けて幅広くインフレ圧力が強まっている模様～

6日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.6%となり、前月（同+2.4%）から加速して約8年半ぶりの高い伸びとなった。ただし、前月比は+0.17%と前月（同+0.59%）から上昇ペースは鈍化しており、国際原油価格の上昇を反映して前月に大幅に上昇したエネルギー価格に一服感が出ているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇の動きが一服するなど、生活必需品を中心とする物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.74%と前月（同+1.32%）から加速しており、約4年半ぶりの高い伸びとなっている。前月比も+0.23%と前月（同+0.04%）から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広い財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大の動きが一巡していることを受けて、行動制限の緩和を反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図2 TW インフレ率の推移

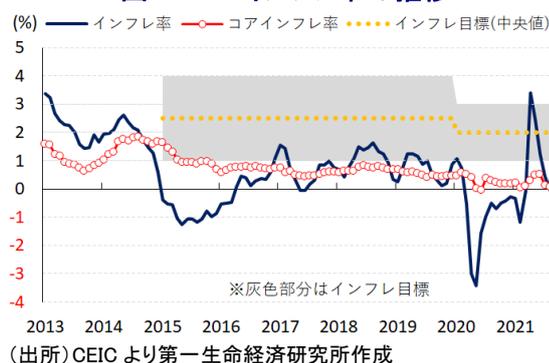


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～生活必需品を中心とする物価上昇を受けてインフレ率は加速の一方、コアインフレ率は低水準で推移～

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.68%となり、前月（同▲0.02%）から2ヶ月ぶりのプラスに転じるとともに、3ヶ月ぶりに中銀の定めるインフレ目標（ $2 \pm 1\%$ ）の範囲内に収まった。前月比も+1.59%と前月（同▲0.18%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の上昇などを背景にエネルギー価格に大幅な上昇圧力が掛かっているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.19%と前月（同+0.07%）から伸びが加速しているものの、引き続きインフレ目標を下回る推移が続いている。ただし、前月比は+0.16%と前月（同▲0.07%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大による行動制限の動きを反映してサービス物価に下押し圧力が掛かるなど対照的な動きがみられるなど、物価を巡る動きはまちまちの状況が続いている。

図3 TH インフレ率の推移



[シンガポール]～高額消費に比較的底堅い動きがみられるも、生活必需品や日用品に対する需要は弱含む～

5日に発表された8月の小売売上高は前年同月比▲2.8%となり、前月（同+0.2%）から7ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲0.61%と前月（同+0.83%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。同国では月ごとの自動車販売の動向がナンバープレート価格の動向で左右される傾向があるなか、当月は前月比+3.62%と前月（同▲10.66%）に大きく減少した反動で2ヶ月ぶりの拡大に転じる動きがみられた。結果、自動車を除いたベースでは前月比▲1.25%と前月（同+2.81%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど家計消費は全般的に頭打ちしている。政府による新型コロナ禍対応の変化も相俟って、自動車需要の堅調さを反映してガソリン需要も同様に底堅い動きをみせているほか、宝飾品など高額品に対する需要やレクリエーション関連の需要も堅調な推移をみせている一方、コンピュータ関連をはじめとする通信機器関連のほか、食料品など生活必需品や日用品に対する需要は弱含むなど対照的な動きが続いている。

図4 SG 小売売上高の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。